

カフェンストロール・ベンスルフロンメチル・ベンゾピシクロン剤 テラガード L250 グラム	取扱メーカー： クミカ* 原体メーカー： エス・ディー・エス、クミカ、 エス・ディー・エス
成分： カフェンストロール〔酸アミド系 PRTR・1種〕…8.4% ベンスルフロンメチル〔スルホニルウレア系〕……2.0% ベンゾピシクロン〔ピシクロオクタン系〕……8.0%	性状： 類白色粒状 粒径3～8mm (250グラム)
	毒性： 普通物 消防法： ——

【品目特性】

●粒径約5mmの豆つぶ製剤で、10a当りの使用量が250gと軽量である。

●広範囲の雑草に優れた効果を示す、初・中期一発処理除草剤である。

●スルホニルウレア剤に感受性が低下したホタルイ類やアゼナ類などの雑草に対しても卓効を示す。

●イボクサ、アシカキ、などの畦畔から侵入してくる難防除雑草に対しても高い防除効果と侵入抑制を示す。

●フロアブルやジャンボ剤と同様の自己拡散型製剤で、水中拡散性が極めて優れるため水田の周縁部散布など、不均一散布が可能である。

●畦畔を廻りながらフロアブルのように袋からの直接散布や、ひしゃく散布、動力散布機での省力散布ができる。

●粒が大きいので風による飛散が少ない。また散布時に衣服が汚れない。

●有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】

●共通注意事項の5、水稲除草剤散布 使用上のポイントを参照。

●適用地域は北陸、関東以西である。

●雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布する。

●多年生雑草は生育段階によって効果にフレがあるので、必ず適期に散布する。

雑草名	散布適期
ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ	2葉期まで
ヒルムシロ	発生期まで
セリ	再生始期まで
アオミドロ・藻類 による表層はく離	発生前

●スルホニルウレア剤に感受性の低下したホタルイ等が発生する圃場では早め（ノビエ2葉期頃まで）に散布する。

●散布の際は、やや深めの湛水状態（水深5～6cm）で水の出入りを止める。

●湛水散布の場合は田面に散布し、また、湛水周縁散布の場合は水田周縁部に沿って帯状に散布し、散布後少なくとも3～4日は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。また、入水は静かに行う。

【薬効・薬害等の注意】

●共通注意事項の5、水稲除草剤散布 薬効・薬害等の注意を参照。

●散布後の数日間に著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。

●移植前に生育したミズガヤツリは、物理的防除法などを用いて移植前に防除してから使用する。

●適用作物（水稲）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

●適用外作物（いぐさ、れんこん、せり、くわい）への薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

●藻類・表層はく離などの水面浮遊物が多い場合は、拡散が不十分になるおそれがあるため、周縁部散布をさけ、本田内で水田全面に散布する。

●散布器具・容器の洗浄水及び空容器は適切に処理する。

【安全対策上の注意】

- 魚類に影響を及ぼすので、使用時は注意。
- 藻類に影響を及ぼすので、使用時並びに使用後も注意。

【適用と使用法】

作物名	適用雑草名	使用時期	10 a 当り 使用量	使用方法	本剤の 使用回数
移植水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による 表層はく離	移植後3日～ ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日 まで	250 g	湛水散布又は 湛水周縁散布	1回 ※

※カフェンストロールを含む農薬の総使用回数 : 1回
 ※ペンスルフロンメチルを含む農薬の総使用回数 : 2回以内
 ※ベンゾピシクロンを含む農薬の総使用回数 : 3回以内